

海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	オーストラリア 西オーストラリア州 パース市
研修先	西オーストラリア州 兵庫文化交流センター
プログラム実習期間	2012年9月4日～9月22日
学部/研究科・学年	国際文化学部 4年

インターンシップ就業実習 報告書

当インターンシップにおいては、日本語授業のサポートや子供達に対する日本文化の紹介など、教育の分野をメインに非常に様々な活動に参加させて頂いた。その業務内容は各種行事の運営をサポートするものや、自らで行事を企画・運営するものなど多岐に渡っており、インターン生としては非常に有意義で興味深い活動をさせて頂いた。以下、経験した仕事内容をいくつか抜粋して、紹介していく。

□ ファームステイ体験

インターン開始直後の三日間、パース都市部からバスで3時間程かかる Corrigin の町でファームステイを経験させて頂いた。引き受けを担当して下さった Suanne さんは農家でありながら、小学校で日本語の教諭をなさっており、そのため私達も学校のある昼間は日本語授業のサポートを行った。また午前中には羊の追い込み作業や毛狩りを見学お手伝いさせて頂き、日本ではできない貴重な経験となった。



□ School visit

小学校～高校までの日本語を学ぶ生徒を対象とした、兵庫文化センターへの学校訪問があった。主な活動は書道、茶道体験などで、私達はそのサポート業務を行った。具体的には会場の設営、書道におけるデモンストレーションや補助、茶道体験に使うお茶の準備、生徒らへのお弁当の配布、後片付けといったものである。就業中に学校訪問は三度あり、年齢や能力の異なる多くの子供達と接する事が出来た。

□ 日本語ワークショップ

国際交流基金から派遣された方々と兵庫文化センターとの共同で企画された、日本のお弁当文化について学ぶセミナーが三日間に渡って開催された。これは日本語を学ぶ生徒らを対象とし、毎日数校ずつを招いて行われており、私達は主に運営のサポート業務(プレゼンターの方のお手伝い、モーニング・ティー時に生徒に配布するあんパン・メロンパンの切り分け・袋詰め作業、各種催しのセッティング、キャラおにぎり作りの説明と補助、後片付け等)に携わらせて頂いた。また、そのうち一日にはインターン生主催で「兵庫のお弁当文化」についてプレゼンテーションを行う時間を設けて頂き、「駅弁」文化を軸として二人で 15 分程のプレゼンテーションを子供達に行った。子供達に分かりやすく興味深いプレゼンテーションを作るのは難しい事であったが、数日に渡ってセンターの方々にアドバイスを頂き、改良を重ねた結果、実施後には学校の教員の方々などから好評を頂く事が出来た。



□ インターン生主催の「Experience Hyogo Japan」ワークショップ
9/22 14:00~16:00にかけて、企画や運営、宣伝までほぼ全てを任せて頂き、ワークショップを行った。インターン前半でイベントの大枠を決め、宣伝広告を制作。より多くの方に参加して頂くため、各種セミナーや日本人学校への呼びかけ、また近隣の学校にも依頼し広告を各教室に貼り付け、各家庭にも送付して頂いた。

イベントの内容としては、

・兵庫の文化紹介プレゼンテーション

(兵庫の温泉文化、また二人の出身地である兵庫の各市について、等)

・折り鶴作成→参加者全員で「神戸ルミナリエ」を模した模型を作成

・お弁当コーナー(たこさんウインナー作り、キャラおにぎり・ウサギリンゴなどの展示)、どら焼き、茶道体験

当日は50~60人程の多くの方に参加して頂き、多くの方から「楽しかった」というお声をかけて頂く事が出来た。



□その他業務内容

その他の業務に関しては、図書の貸し出しや、毎週土曜日にセンターで行われている Chatter box の準備や後片付け、その他センターが会場を提供して行われるイベントの設営補助といったものであった。特に Chatter box に関しては、オーストラリアに住む日本人や非日本人など、様々な人々が参加しており、そういった各々異なるバックグラウンドを持った人々と接する事は私達インターン生にとっても興味深いものであった。

感想および意見

インターンシップの感想及び意見として、まずこのような素晴らしい機会を設けて頂いた神戸大学、並びに兵庫県国際交流協会に感謝の意を示したい。元々海外での日本語教育に興味があり、「就職活動が終わる4年次には夢であった海外で働くという事を実感したい」と思っていた私にとって、またとない良いプログラムであった。特に受け入れを担当して頂いた西オーストラリア大学・兵庫文化交流センターの皆様には何も分からない私達を一から指導して頂き、人間的にも成長させて頂いた。このようなプログラムが今後も継続され、またさらにより良いものとなっていくよう、ここに私が感じた感想及び意見を述べさせて頂く。

1. 仕事について

当インターンシップにおける仕事内容についてまず言えるのが、本当に様々な事を経験させて頂いたという事だ。三日間に渡るファームステイから始まり、書道や茶道など日本文化の指導、オーストラリアの子供達への英語でのプレゼンテーション、ほぼ全てを自分達で決めていったワークショップ…。多様な活動を行う中で、予想していたよりも遥かに多くの、様々な考えや感情を自分の中に持つことが出来たように思う。特に今年からの取り組みとして行われたファームステイでは、農場での経験はもちろん、小学校での日本語授業のサポート経験も印象的であった。私達が行ったのはパース市街からバスで三時間ほどの Corrigin という小さな町の、生徒数も少ない小さな学校だったのだが、そのような場所においても生徒が意欲的に

日本語を学んでいる事、また初めて見る海外での日本語授業が、非常に教え方が工夫されている事に感銘を受けた。元々「海外に発信していけるよう、自分自身も日本文化について学びたい」という気持ちから当インターンシップに望んだのであるが、こういった日本語授業や日本文化を伝える場において、海外からの日本文化の見られ方を学ぶ事は、その点で非常に有意義であったといえる。

また就業体験についても、「社会人として受け入れられ、働くということ」を来年社会に出る身として、今一度認識する良い機会となった。特にセミナー等が立てこんでいる際は、行動に優先順位をつけ、効率性が求められる場面が多々あり、忙しい中でも効率よく、素早く仕事をこなすセンターの方々を見て、自分に足りない所にも大いに気付かされた。このような仕事のダイナミズムを学ぶ事で、セミナーでも後半になって来ると最初よりも効率よく、スムーズに運営に携わる事が出来た事は、この就業体験における一番の成長であったのではないかと思う。

以上の通り就業内容については非常に有意義な経験をさせて頂いた訳だが、このインターンシップに関して一つ気になった事は、パースの場合働く上での事前情報が少し足りないと感じる事があったという点だ。もちろん仕事の大枠などは事前にセンターの方々や大学の留学生課に知らせて頂き、準備を行う事が出来たのだが、私達の場合メインイベントであるインターン生によるワークショップで行おうと企画していた事が、いざセンターに行ってみると実は前年も同じような事を行っていた…と知るなど、企画の変更を考えなければならないような事もあった。事前に確認していればそれまでという話ではあるのだが、前年の企画内容などを具体的に把握しておくなどすれば、双方の負担も減り、よりインターン生が仕事内容をイメージし、準備しやすくなるのではないかと思う。

2. プライベート(ホームステイについて)

結論から言えば、本当に良い環境の中パースでの生活をサポートして頂いたと思う。ホームステイ先がなかなか決まらず、インターンシップ期間を延期し早めに日本を帰った私にとって、離陸直前にステイ先の情報が送られるなど不安な要素も少しあったのだが、そのような不安を全て打ち消すような素晴らしい家庭に受け入れて頂いた。あくまで私を家族の一員として受け入れて頂き、オーストラリアの日常生活の中で仕事や子育てから今後のライフプランに至るまで、様々な話を実際に見聞きできた事は、来年から社会に出る身として自分の生き方をより一層考える機会となったと思う。また、私のステイ先には近隣の小学校に通う娘がおり、私がオーストラリアの学校教育に関心がある事を伝えると、ホストマザーは学校の授業を見学できるよう取り計らってくれ、また学校側も非常に快く私を出迎えてくれるなど、様々な人の好意により決して外側からでは見えないオーストラリアの学校教育のあり方を実感する事が出来た。またそのような活動を通じて学校の子供達や、日本語教員など様々な人と交流を持つ事もでき、改めてどのような分野においても自分の挑戦したい事をしっかりと発信し、外に出ていく事の大切さを感じた。

以上のように、ホームステイで日常の暮らし、文化の違いや考え方を体感できた事は、当インターンシップにおいてオーストラリアの人々と接し、働く上でも、かなりプラスの要素になっていたと考える。そのため、今後当インターンシップを実施していくに当たっても、このような良い制度が継続され、素晴らしい経験をして頂きたいと思う。